【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成19年12月27日(2007.12.27)

【公開番号】特開2001-231042(P2001-231042A)
【公開日】平成13年8月24日(2001.8.24)
【出願番号】特願2000-354506(P2000-354506)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　7/30　(2006.01)
Ｈ０３Ｍ　7/30　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　1/41　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　7/133　Ｚ
Ｈ０３Ｍ　7/30　Ａ
Ｈ０４Ｎ　1/41　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成19年11月9日(2007.11.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
画像データの、それぞれ等しいサイズを有する輝度成分と２つの色差成分のそれぞれに離散ウェーブレット変換を施す離散ウェーブレット変換手段と、
前記離散ウェーブレット変換手段により生成されたサブバンドの係数を符号化する係数符号化手段と、
前記係数符号化手段により符号化された輝度成分と色差成分のそれぞれに対応する符号化データを配列して符号化データを生成する符号化データ生成手段とを有し、
前記離散ウェーブレット変換手段は、前記輝度成分よりも前記２つの色差成分のそれぞれへの離散ウェーブレット変換の回数を多くして前記輝度成分と色差成分とを前記２つの色差成分の異なる数のサブバンドに分解し、
前記符号化データ生成手段は、前記符号化データの同じレベルのサブバンドの符号化データの一部或は全体を順次配列して前記符号化データを生成することを特徴とする画像処理装置。
【請求項２】
前記離散ウェーブレット変換手段による離散ウェーブレット変換において、前記輝度成分の最も低い周波数成分ＬＬのサイズは２ｍ×２ｎであり、前記色差成分の最も低い周波数成分ＬＬのサイズはｍ×ｎであることを特徴とする請求項１に記載の画像処理装置。
【請求項３】
画像データの、それぞれ等しいサイズを有する輝度成分と２つの色差成分のそれぞれに離散ウェーブレット変換を施す離散ウェーブレット変換工程と、
前記離散ウェーブレット変換工程で生成されたサブバンドの係数を符号化する係数符号化工程と、
前記係数符号化工程で符号化された輝度成分と色差成分のそれぞれに対応する符号化データを配列して符号化データを生成する符号化データ生成工程とを有し、
前記離散ウェーブレット変換工程において、前記輝度成分よりも前記２つの色差成分のそれぞれへの離散ウェーブレット変換の回数を多くして前記輝度成分と色差成分とを前記

２つの色差成分の異なる数のサブバンドに分解し、
前記符号化データ生成工程は、前記符号化データの同じレベルのサブバンドの符号化データの一部或は全体を順次配列して前記符号化データを生成することを特徴とする画像処理方法。
【請求項４】
前記離散ウェーブレット変換工程の離散ウェーブレット変換において、前記輝度成分の最も低い周波数成分ＬＬのサイズは２ｍ×２ｎであり、前記色差成分の最も低い周波数成分ＬＬのサイズはｍ×ｎであることを特徴とする請求項３に記載の画像処理方法。
【請求項５】
コンピュータを、
画像データの、それぞれ等しいサイズを有する輝度成分と２つの色差成分のそれぞれに離散ウェーブレット変換を施す離散ウェーブレット変換手段と、
前記離散ウェーブレット変換手段により生成されたサブバンドの係数を符号化する係数符号化手段と、
前記係数符号化手段により符号化された輝度成分と色差成分のそれぞれに対応する符号化データを配列して符号化データを生成する符号化データ生成手段とを有し、
前記離散ウェーブレット変換手段は、前記輝度成分よりも前記２つの色差成分のそれぞれへの離散ウェーブレット変換の回数を多くして前記輝度成分と色差成分とを前記２つの色差成分の異なる数のサブバンドに分解し、
前記符号化データ生成手段は、前記符号化データの同じレベルのサブバンドの符号化データの一部或は全体を順次配列して前記符号化データを生成することを特徴とする画像処理装置として機能させる制御プログラムを格納した、前記コンピュータにより読取り可能な記憶媒体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
【課題を解決するための手段】
上記目的を達成するために本発明の画像処理装置は以下のような構成を備える。即ち、
画像データの、それぞれ等しいサイズを有する輝度成分と２つの色差成分のそれぞれに離散ウェーブレット変換を施す離散ウェーブレット変換手段と、
前記離散ウェーブレット変換手段により生成されたサブバンドの係数を符号化する係数符号化手段と、
前記係数符号化手段により符号化された輝度成分と色差成分のそれぞれに対応する符号化データを配列して符号化データを生成する符号化データ生成手段とを有し、
前記離散ウェーブレット変換手段は、前記輝度成分よりも前記２つの色差成分のそれぞれへの離散ウェーブレット変換の回数を多くして前記輝度成分と色差成分とを前記２つの色差成分の異なる数のサブバンドに分解し、
前記符号化データ生成手段は、前記符号化データの同じレベルのサブバンドの符号化データの一部或は全体を順次配列して前記符号化データを生成することを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０

【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
上記目的を達成するために本発明の画像処理方法は以下のような工程を備える。即ち、
画像データの、それぞれ等しいサイズを有する輝度成分と２つの色差成分のそれぞれに離散ウェーブレット変換を施す離散ウェーブレット変換工程と、
前記離散ウェーブレット変換工程で生成されたサブバンドの係数を符号化する係数符号化工程と、
前記係数符号化工程で符号化された輝度成分と色差成分のそれぞれに対応する符号化データを配列して符号化データを生成する符号化データ生成工程とを有し、
前記離散ウェーブレット変換工程において、前記輝度成分よりも前記２つの色差成分のそれぞれへの離散ウェーブレット変換の回数を多くして前記輝度成分と色差成分とを前記２つの色差成分の異なる数のサブバンドに分解し、
前記符号化データ生成工程は、前記符号化データの同じレベルのサブバンドの符号化データの一部或は全体を順次配列して前記符号化データを生成することを特徴とする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
上記目的を達成するために本発明の記憶媒体は、
コンピュータを、
画像データの、それぞれ等しいサイズを有する輝度成分と２つの色差成分のそれぞれに離散ウェーブレット変換を施す離散ウェーブレット変換手段と、
前記離散ウェーブレット変換手段により生成されたサブバンドの係数を符号化する係数符号化手段と、
前記係数符号化手段により符号化された輝度成分と色差成分のそれぞれに対応する符号化データを配列して符号化データを生成する符号化データ生成手段とを有し、
前記離散ウェーブレット変換手段は、前記輝度成分よりも前記２つの色差成分のそれぞれへの離散ウェーブレット変換の回数を多くして前記輝度成分と色差成分とを前記２つの色差成分の異なる数のサブバンドに分解し、
前記符号化データ生成手段は、前記符号化データの同じレベルのサブバンドの符号化データの一部或は全体を順次配列して前記符号化データを生成することを特徴とする画像処理装置として機能させる制御プログラムを格納した、前記コンピュータにより読取り可能な記憶媒体である。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】削除
【補正の内容】